

都市再生整備計画 事後評価シート

越後湯沢駅周辺地区

令和8年3月

新潟県湯沢町

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	新潟県		市町村名		湯沢町		地区名		越後湯沢駅周辺地区			面積	31ha	
交付期間	令和2年度～令和6年度		事後評価実施時期		令和7年度		交付対象事業費		1,274百万円	国費率	0.5			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	事業名												
		基幹事業	公園(主水公園)、地域生活基盤施設(越後湯沢駅東口駅前広場、情報板(湯沢駅前広場)、サイン整備、町道(ベンチ設置)、越後湯沢駅エレベーター、越後湯沢駅公衆トイレ)											
		提案事業	地域創造支援事業(駅東地区街づくり調査計画事業、地域活性化支援調査、旧湯沢小グランド利活用検討調査)、事業活用調査(事業効果分析調査)											
	当初計画から削除した事業	事業名				削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
		基幹事業	町道(ベンチ設置)				現地確認の結果、車イスの通れる幅を確保できる場所への設置が難しいため削除				指標3「通行者数」に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。			
	提案事業	①地域創造支援事業(駅東地区街づくり調査計画事業、地域活性化支援調査) ②地域創造支援事業(旧湯沢小グランド利活用検討調査)				①関連事業への移行による提案事業からの削除 ②町民から現状のままの使用について要望があり、町の方針を検討した結果による削除				①影響なし ②指標2「公園を使用したイベント回数」に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。				
	新たに追加した事業	基幹事業	－				－				－			
交付期間の変更	当初変更	令和2年度～令和6年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		－								
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因		フォローアップ		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)		予定時期		
	指標1	乗降客数	人/日	6,351	H30	7,500	R6	7,194	△	あり なし	越後湯沢駅東口駅前広場やエレベーター整備等により利便性の向上や、情報板及びサイン整備による駅周辺の情報提供の充実により、乗降客数が増加した。	R8年度		
	指標2	公園を使用したイベント回数	回/年	0	H30	2	R6	2	○	あり なし	主水公園の整備により新たなイベントの場が創出されたことで、公園を活用した各種イベントが開催された。	－		
	指標3	通行者数	人/12h	1,076	H26	1,300	R6	1,363	○	あり なし	越後湯沢駅東口駅前広場整備及び東口のエレベーター整備により駅東西のアクセシ性が向上し、また県道湯沢温泉線の魅力的な歩行空間が形成され、通行者数が増加した。	－		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因		フォローアップ		
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)		予定時期			
その他の数値指標1														
4)定性的な効果発現状況	越後湯沢駅東口駅前広場や地区内の道路空間を活用した新たなイベント(屋台村、ナイトマルシェ)が開催され、地域住民が主体となって公共空間の賑わいを創出する機運が高まっている。													
5)実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング				－				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					
	住民参加プロセス				・「商店街エリア活性化事業(越後湯沢駅東口エリア)」の成果報告会として意見交換会を実施 ・主水公園の整備に関する意見収集				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					
	持続的なまちづくり体制の構築				「All Youth Yuzawa」による整備施設を活用した取り組み				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					
									若い世代がまちづくりに参加しやすい環境整備を進めるため、町は後方から支援する。					

様式2-2 地区の概要

越後湯沢駅周辺地区（新潟県湯沢町）都市再生整備計画事業の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標：自然にあつまるまち湯沢		乗降客数	単位：人/日	6,351	H30	7,500	R6	7,194	R6
目標1：越後湯沢駅周辺の拠点性の強化とバリアフリー化の推進		公園を使用したイベント回数	単位：回/年	0	H30	2	R6	2	R7
目標2：多様な世代が交流する快適な暮らしと生活の場の充実		通行者数	単位：人/12h	1,076	H26	1,300	R6	1,363	R7
目標3：誰もが歩きたくなる道路空間整備による賑わい創出									

越後湯沢駅周辺地区 31ha

提案事業：事業効果分析調査

基幹事業：公園・主水公園

関連事業：商店街エリア活性化事業（駅東地区街づくり調査計画事業・地域活性化支援調査）

基幹事業：地域生活基盤施設・サイン整備

基幹事業：地域生活基盤施設・越後湯沢駅駅前広場

基幹事業：高質空間形成施設・越後湯沢駅エレベーター、公衆トイレ

基幹事業：地域生活基盤施設・情報板

関連事業：小公園整備

関連事業：町道1B-140, 141, 142

関連事業：県道湯沢温泉線美装・電柱移設

関連事業：店舗修景

関連事業：越後湯沢駅西口駅前広場

凡例

- 都市再生整備計画区域
- 都市機能誘導区域
- 居住誘導区域

越後湯沢駅

湯沢町役場

0 100 200 400 600 800 1000m

主水公園

小公園整備

越後湯沢駅駅前広場

越後湯沢駅エレベーター、公衆トイレ

まちの課題の変化

- 交流人口の活用
- ・主水公園や小公園（西口駅前広場、かんなつくり）整備により、観光客等の来訪者も見込める場所に、人々が集い・ふれあえる交流空間が創出された。
- ・主水公園を使用したイベントが開催され、観光客や住民など多様な人々の交流が促進された。
- 若者に選ばれる居住環境の提供
- ・主水公園整備により、子どもがのびのびと遊べる場が創出され、若者や子育て世代の居住環境が向上した。
- ・越後湯沢駅駅前広場及びエレベーター、公衆トイレのバリアフリー化により、誰でも気軽に利用できる交通結節点として強化が図られた。
- 通年を通して人々が訪れる魅力づくり
- ・県道湯沢温泉線の美装等の道路空間整備により歩いて楽しく、誰もが歩きたくなる道路空間が形成された。
- ・道路空間としての魅力が向上したことで夏期の通行者数が増加した。
- 新たな課題
- ・駅前広場のバリアフリー化により快適な空間が創出された一方で、冬季のピーク時にはシャトルバスを待つスキー客による混雑が発生し、地域住民や他の来訪者の円滑な動線確保が新たな課題となっている。

今後のまちづくりの方策（改善策を含む）

- ・主水公園や道路空間等を人々の交流の場として継続的な利活用を図るため、町が主催するイベントの開催や地域活動団体等の活動支援と連携強化を推進するとともに、施設の適切な維持管理を行う。
- ・「子どもがのびのび遊べる空間（主水公園）」や「駅のバリアフリー化」といった成果を、「若者の定住」や「少子高齢化対策」へのアピールポイントとして活用する。
- ・住み続けたい居住環境を維持するため、災害リスクの抽出を行いリスクに応じた体系的な防災対策を推進する。
- ・情報板やデジタルサイネージを活用し、バスの運行情報や待ち時間に立ち寄れる周辺施設の情報発信を行い、待機時間をまちなかの回遊へ誘導する。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2－① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2－② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2－参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3－① モニタリングの実施状況
- 添付様式3－② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3－③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4－① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4－② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4－③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5－① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5－② まちの課題の変化
- 添付様式5－③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5－参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5－④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(1) 成果の評価

添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路									
公園	主水公園	757	A=11,000㎡	925	A=11,000㎡	旧湯沢小学校の解体工事のアスベスト除去や実施設計による事業費増	指標2「公園を使用したイベント回数」に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。	●	
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	越後湯沢駅東口駅前広場	37	A=6,800㎡	1.5	A=6,800㎡	ロードヒーティングの計画が能力的に困難であることから、既存の消雪パイプの活用に変更したことによる事業費減	指標1「乗降客数」、指標3「通行者数」に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。	●	
地域生活基盤施設	情報板(湯沢駅前広場)	6	N=2基	3	N=1基	別事業で1基を整備したことによる事業費減	指標1「乗降客数」、指標3「通行者数」に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。	●	
地域生活基盤施設	サイン整備	32	N=10基	30	N=10基	事業費の見直し	影響なし	●	
高質空間形成施設	町道(ベンチ設置)	8	N=20基	—	—	現地確認の結果、車イスの通れる幅を確保できる場所への設置が難しいため削除	指標3「通行者数」に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。	—	
高質空間形成施設	越後湯沢駅エレベーター	138	N=1基	254.5	N=1基	JRとの協議の結果、設置箇所を変更したことによる事業費増	指標1「乗降客数」、指標3「通行者数」に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。	●	
高質空間形成施設	越後湯沢駅公衆トイレ	43	N=1基	58	N=1基	アスベスト除去等による事業費増	影響なし	●	
高次都市施設									
誘導施設									
既存建造物活用事業									
土地区画整理事業									
市街地再開発事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
住宅街区整備 事業									
バリアフリー環 境整備事業									
優良建築物等 整備事業									
住宅市街地 総合整備 事業									
街なみ環境整 備事業									
住宅地区改良 事業等									
都心共同住宅 供給事業									
公営住宅等整 備									
都市再生住宅 等整備									
防災街区整備 事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	駅東地区街づくり調査計画事業	5	—	—	—	関連事業への移行による提案事業からの削除	影響なし	—	
	地域活性化支援調査	5	—	—	—	関連事業への移行による提案事業からの削除	影響なし	—	
	旧湯沢小グランド利活用検討調査	6	—	—	—	町民から現状のままの使用について要望があり、町の方針を検討した結果による削除	指標2「公園を使用したイベント回数」に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。	—	
事業活用調査	事業効果分析調査	2	—	2	—	なし	—	●	
まちづくり 活動推進事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考) 関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
県道湯沢温泉線美装化・電柱移設		県道湯沢温泉線	284	284	平成30年度～令和4年度	平成30年度～令和4年度	計画通り事業完了	
美装化(アスファルト打ち替え)		町道1B-140,141,142	67	67	平成30年度～令和4年度	平成30年度～令和4年度	計画通り事業完了	
小公園整備		越後湯沢駅西口駅前広場	97	97	平成30年度～令和4年度	平成30年度～令和4年度	計画通り事業完了	
小公園整備		かんなっくり	43	43	平成30年度～令和4年度	平成30年度～令和4年度	計画通り事業完了	
商店街エリア活性化事業		越後湯沢駅東口エリア	—	3	—	令和3年度～令和4年度	計画通り事業完了	

添付様式2－① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無	
															あり	なし
指標1	乗降客数	人/日	JR東日本ホームページで公開されている越後湯沢駅の乗降客数を把握	9,794	H24	6,351	H30	7,500	R6	モニタリング			モニタリング		●	
										事後評価	確定見込み	●	7,194	事後評価	△	
指標2	公園を使用したイベント回数	回/年	主水公園の供用開始後(令和7年6月以降)に公園を使用した各種イベント等の開催回数を把握	－	－	0	H30	2	R6	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み	●	2	事後評価	○	
指標3	通行者数	人/12h	県道湯沢温泉線における令和7年8月最終週の平日(7時～19時)の歩行者数を計測し算定	－	－	1,076	H26	1,300	R6	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み	●	1,363	事後評価	○	

指 標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	新型コロナウイルスの影響により乗降客数が一時的に減少したものの、事業完了後は増加しており、令和7年度も増加傾向が続くものと推測されるため。	事後評価時点(令和6年度値)は、主水公園整備及びサイン整備、情報板整備が未完了であったため、整備完了との相乗効果により目標達成が見込まれる。
指標2	主水公園の整備により新たなイベントの場が創出されたことで、令和7年6月、11月にイベントが開催され、目標値を達成した。	－
指標3	越後湯沢駅周辺東口におけるエレベーター設置等のバリアフリー化により駅東西のアクセス性が向上するとともに、県道湯沢温泉線の整備や周辺道路の美装化等により、歩行空間の魅力が向上したことで通行者数が増加し、目標値を達成した。	－

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。
※2 目標達成度の記入方法
○:評価値が目標値を上回った場合
△:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合
×:評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2ー② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
	単位			基準 年度		基準 年度						
その他の 数値指標1								モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標2								モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標3								モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2ー参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

越後湯沢駅東口駅前広場や地区内の道路空間を活用した新たなイベント(屋台村、ナイトマルシェ)が開催され、地域住民が主体となって公共空間の賑わいを創出する機運が高まっている。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
—	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	—	—

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
「商店街エリア活性化事業(越後湯沢駅東口エリア)」の成果報告会として意見交換会を実施	予定どおり実施した	【実施頻度・実施時期】令和4年3月8日(全1回) 【実施結果】芝浦工業大学に委託し、関係者へのヒアリングや商店街の実態調査を実施した。業務委託の成果として、「越後湯沢駅東口エリア 商店街エリア活性化事業 成果報告書」を作成し、成果報告会(意見交換会)を行った。意見交換会では、活性化につながる25の施策のアイデアからやりたいことを選択し、それに関するアイデア出しを行った。	今後も地域住民の意見を取り入れながら、商店街エリアの活性化に向けた具体的な取り組みを進める。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
主水公園の整備に関する意見収集	予定どおり実施した	【実施頻度・実施時期】令和4年6月14日～7月11日 【実施結果】主水公園の基本設計の広場の仕様(芝・土・舗装等)や遊具の種類、必要な設備等について近隣住民の意見収集について回覧を行い、実施設計の参考とした。	今後も公園整備等を行う際は、検討段階から地域住民の意見を取り入れる。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
「All Youth Yuzawa」による整備施設を活用した取り組み	予定どおり実施した	主水公園内の体育館と、公園に隣接するグラウンドを会場としたイベントを主催し、地域交流の場を創出している。	組織名: All Youth Yuzawa 湯沢町に在住または在勤の18歳以上39歳以下の若者による組織。	若い世代がまちづくりに参加しやすい環境整備を進めるため、町は後方から支援する。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な検討体制	建設課、企画観光課、子育て支援課	令和7年12月	湯沢町建設課(都市再生整備計画主管課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		指標3			
指 標 名		乗降客数		公園を使用したイベント回数		通行者数			
種別	事業名・箇所名	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見
基幹事業	公園(主水公園)	—	新型コロナウイルスの感染拡大に伴う移動制限により大幅に乗降客数が減少したものの、越後湯沢駅東口駅前広場やエレベーター整備等により利便性が向上し、乗降客数が増加傾向にある。また、R7年12月の情報板及びサイン整備の完了により、駅周辺の情報案内が充実することで更なる増加が期待される。	◎	主水公園の整備により新たなイベントの場が創出されたことで公園を活用した各種イベント(園児を対象としたプレオープンイベント、リニューアル記念イベント)が開催された。また、情報板やサイン整備等により主水公園周辺の回遊性が向上し、更なる交流促進が期待される。	◎	越後湯沢駅東口駅前広場整備及び東口のエレベーター整備により駅東西のアクセス性が向上し、また、県道湯沢温泉線や町道的美装化、小公園整備により魅力的な歩行空間が形成され、通行者数が増加した。		
	地域生活基盤施設(越後湯沢駅東口駅前広場)	◎		—		◎			
	地域生活基盤施設(情報板(湯沢駅前広場))	○		○		◎			
	地域生活基盤施設(サイン整備)	○		○		◎			
	高質空間形成施設(越後湯沢駅エレベーター)	◎		—		◎			
	高質空間形成施設(越後湯沢駅公衆トイレ)	◎		—		○			
提案事業	事業活用調査(事業効果分析調査)	○		○		○			
関連事業	県道湯沢温泉線美装化・電柱移設(県道湯沢温泉線)	○		○		◎			
	美装化(アスファルト打ち替え)(町道1B-140,141,142)	○		○		◎			
	小公園整備(越後湯沢駅西口駅前広場)	○		○		◎			
	小公園整備(かんなつり)	○		○		◎			
	商店街エリア活性化事業(越後湯沢駅東口エリア)	—		○		—			

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
—：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	情報提供の充実や案内所の整備検討等、交通拠点性の更なる強化を図る。	観光客や住民などの多様な人々の交流を促進するため、地区内におけるイベントの継続的な開催を推進する。	歩きたい雰囲気のある街並みづくり継続し、来訪者の回遊を促進し滞在時間の延長につなげる。
-------	-----------------------------------	---	---

添付様式4ー③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別													
指 標 名													
種別	事業名・箇所名	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因の 分類	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因の 分類	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因の 分類	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因の 分類
基幹事業													
提案事業													
関連事業													

※目標未達成への影響度
××：事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の直接的な原因となった。
×：事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の間接的な原因となった。
△：数値目標が達成できなかった中でも、
ある程度の効果をあげたと思われる。
－：事業と指標の間には、もともと関係がないことが
明確なので、評価できない。

※要因の分類
分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)				
------------------	--	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な検討体制	建設課、企画観光課、子育て支援課	令和7年12月	湯沢町建設課(都市再生整備計画主管課)

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
人口減少による町中心部の賑わいの減少が懸念されるなか、年間400万人以上の観光客が訪れており、これらの交流人口を町の活力として活用することが必要である。	主水公園や小公園(西口駅前広場、かんなっくり)整備により、観光客等の来訪者も見込める場所に、人々が集いふれあえる交流空間が創出された。 主水公園を使用したイベントが開催され、観光客や住民など多様な人々の交流が促進された。	—	駅前広場のバリアフリー化により快適な空間が創出された一方で、冬季のピーク時にはシャトルバスを待つスキー客による混雑が発生し、地域住民や他の来訪者の円滑な動線確保が新たな課題となっている。
若者の転出や出生率の低下により少子高齢化が進行しており、定住人口や交流人口以外に若者に選ばれる居住環境を提供する必要がある。	主水公園整備により、子どもがのびのびと遊べる場が創出され、若者や子育て世代の居住環境が向上した。 越後湯沢駅東口駅前広場及びエレベーター、公衆トイレのバリアフリー化により、誰でも気軽に利用できる交通結節点として強化が図られた。	—	
観光客数は横ばいで推移しており、6割は冬季のスキー客が占めており、通年を通して多くの人々が訪れる魅力づくりが必要である。	県道湯沢温泉線の美装化等の道路空間整備により歩いて楽しく、誰もが歩きたくなる道路空間が形成された。 道路空間としての魅力が向上したことで夏期の通行者数が増加した。	—	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5ー③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	官民連携による公共空間の活用	主水公園や道路空間等を人々の交流の場として継続的な利活用を図るため、町が主催するイベントの開催や地域活動団体等の活動支援と連携強化を推進するとともに、施設の適切な維持管理を行う。	・各団体の主体的で自立した活動の支援 ・公共空間の適正管理
	移住した若者の定住促進	「子どもがのびのび遊べる空間(主水公園)」や「駅のバリアフリー化」といった成果を、「若者の定住」や「少子高齢化対策」へのアピールポイントとして活用する。	・移住定住促進PR事業
	安全・安心な居住環境の整備	住み続けたい居住環境を維持するため、災害リスクの抽出を行いリスクに応じた体系的な防災対策を推進する。	・防災指針の検討(立地適正化計画の見直し) ・避難訓練の実施等による防災意識向上

B欄 改 善 策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	来訪者のまちなか誘導	情報板やデジタルサイネージを活用し、バスの運行情報や待ち時間に立ち寄れる周辺施設の情報発信を行い、待機時間をまちなかの回遊へ誘導する。	・デジタルサイネージ等を活用した情報提供の実施

・未達成の目標を達成するための改善策
・未解決の課題を解消するための改善策
・新たに発生した課題に対する改善策

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5ー③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4ー②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4ー③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5ー②)を再確認した。

添付様式5ー参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

なし

添付様式5ー④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2ー①、2ー②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2ー①、2ー②から転記して下さい。

- ・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指 標		単位	従前値		目標値		評価値			目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度		年度								予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	乗降客数	人/日	6,351	H30	7,500	R6	確定 見込み	● ●	7,194	△	あり なし	● ●	→ R8年度	JR東日本が公表する「各駅の乗車人員」を確認し、確定値とする。	
指標2	公園を使用したイベント回数	回/年	0	H30	2	R6	確定 見込み	● ●	2	○	あり なし	● ●	→ —	—	
指標3	通行者数	人/12h	1,076	H26	1,300	R6	確定 見込み	● ●	1,363	○	あり なし	● ●	→ —	—	
その他の数値指標1							確定 見込み						→		
その他の数値指標2							確定 見込み						→		
その他の数値指標3							確定 見込み						→		

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		・新しい生活様式の普及を踏まえた目標設定を検討する。
	うまく いかなかった点	・指標3「乗降客数」は、新型コロナウイルス感染拡大を契機とした新しい生活様式の浸透による移動の減少が生じたことで、コロナ禍以前の水準に回復しておらず、事業の効果を適切に評価することが難しかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・施設の整備にあたり、基本設計段階で住民意見を収集し、実施設計に可能な限り反映できた。	・住民がまちづくりに関わることができる機会をできるだけ提供し、一体感を持った地区形成を推進する。
	うまく いかなかった点	・地区全体を包括する住民参加機会が不足していた。	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

なし

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	町のホームページに掲載	令和8年1月5日～令和8年2月4日	令和8年1月5日～令和8年2月4日	担当課への窓口での申し出、電話、FAX、電子メール	建設課 (都市再生整備計画事業主管課)
広報掲載・回覧・個別配布	広報ゆざわに町のホームページで原案を公表する旨を掲載	令和8年1月5日～令和8年2月4日	令和8年1月5日～令和8年2月4日		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	建設課窓口にて縦覧	令和8年1月5日～令和8年2月4日	令和8年1月5日～令和8年2月4日		

住民の意見	なし
-------	----

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成			実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	中島 宏明	東日本旅客鉄道株式会社 越後湯沢駅 駅長	令和8年2月25日	建設課	—	湯沢町都市計画審議会
	綿貫 靖夫	湯沢町商工会 会長(欠席)				
その他の委員	宮田 良男	湯沢町街づくり研究会 会長				
	角谷 豊明	元地域整備課長				
	田村 計久	湯沢町議会 議員				
	宮田 真理子	湯沢町議会 議員(欠席)				
	鷲尾 洋一	国土交通省湯沢砂防事務所 所長				
	松川 武彦	国土交通省長岡国道事務所 所長				
	大島 常寛	新潟県南魚沼地域振興局 地域整備部 部長				
	中村 正	一般住民				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	事業の実施状況、数値目標の達成状況が確認された。都市再整備計画の事後評価として妥当であることが確認された。
	実施過程の評価	評価は妥当であることが確認された。
	効果発現要因の整理	整理された内容は適切であることが確認された。
	事後評価原案の公表の妥当性	事後評価原案の公表は適正に公表された。
	その他	特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	事後評価の手続きは妥当であることが確認された。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	課題や今後のまちづくり方策等についての主な指摘として下記の意見があった。 ・東口駅前広場のハード整備で移動がスムーズになったが、それだけでは直接的に乗車人数を伸ばすことは難しいため、ソフト面の整備が必要である。 ・県道湯沢温泉線の通行者数増加を実感する一方、冬期は来訪者の集中による混雑が発生しているため、混雑緩和に向けた対策が必要である。
	フォローアップ	特になし
	その他	特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	今後のまちづくり方策は妥当であることが確認された。
その他		特になし

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

都市再生整備計画(第1回変更)

えちごゆざわえきしゅうへんちく
越後湯沢駅周辺地区

新潟県 ゆざわまち
湯沢町

令和4年12月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	☒
都市再生整備計画事業	☐
まちなかウォークアブル推進事業	☐

目標及び計画期間

様式(1)－②

都道府県名	新潟県	市町村名	湯沢町	地区名	越後湯沢駅周辺地区	面積	31	ha
計画期間	令和2年度	～	令和6年度	交付期間	令和2年度	～	令和6年度	

目標 大目標：自然にあつまるまち湯沢 目標1：越後湯沢駅周辺の拠点性の強化とバリアフリー化の推進 目標2：多様な世代が交流する快適な暮らしと生活の場の充実 目標3：誰もが歩きたくなる道路空間整備による賑わい創出
目標設定の根拠 都市全体の再編方針（都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針）※都市構造再編集集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。 昭和30年に5村が合併し湯沢町として発足して以来、昭和57年に上越新幹線、昭和60年に関越自動車道が開通し、新幹線駅でもある越後湯沢駅を中心として行政機関や病院、商業などの都市機能が集約された中心市街地を形成している。また、関越自動車道湯沢IC付近には町内の小中学校を統合した湯沢学園を中心に教育・福祉・交流の拠点が形成されている。 広域的には、南魚沼市及び魚沼市と「魚沼地域定住自立圏」を形成し、圏域全体として生活機能、結びつきやネットワーク及び圏域マネジメントに連携して取り組んでいる。 越後湯沢駅周辺地区は、湯沢都市計画区域マスタープランにおいて、多くの観光客が賑わう拠点として位置付けられている。 しかしながら、若者・子育て世代の人口減少、中心市街地における空き家・空き店舗の増加により、まちの空洞化や地域の魅力低下が懸念される。 そこで、若者・子育て世代や観光客などが集まる拠点を形成し、中心市街地の都市機能と利便性の高い居住地の維持・向上を図り、人口減少社会に対応した、コンパクトなまちづくりを推進する。 同時に、公共施設の更新・統合・廃止・誘導を推進し、余剰施設については公的不動産民間活用について検討を図る。
まちづくりの経緯及び現況 ・本町は、新潟県の最南部に位置し、古くから天然資源である温泉とスキー場適地に恵まれ、バブル期には年間1,000万人の観光客を数えるリゾート地として発展してきた。 ・昭和57年に上越新幹線、昭和60年に関越自動車道が相次いで開通し、東京から新幹線で約90分、高速道路でも約2時間で結ばれており、山間地としては非常に恵まれた高速交通環境が整備されている。 ・計画区域は湯沢町の中心にあり、JR越後湯沢駅を挟み、小説「雪国」の舞台として知られる温泉街がある駅西側と商店街がある駅東側で構成される。 ・駅西側は、バブル期にはマンションや宿泊施設・店舗が数多く立地するなど、地域の街なみには統一性が見られなくなっている。 ・駅東側は、以前は町の中心として活気ある地域であったが人口減少等により活気を失っている状況にある。 ・平成11年度より温泉通りの活性化に取り組み、平成26年度から地域住民が主体となって「湯沢温泉通り歩行景観整備事業推進委員会」及びその下部組織として「建物部会」「道路部会」「店づくり部会」を設立し、定期的に会合を開きながら、活力ある温泉街の再生に向けたまちづくり活動を展開している。また、平成30年度より、越後湯沢駅東口駅前広場運用検討会議を開催している。
課題 ・観光客数は横ばいで推移しており、6割は冬季のスキー客が占めており、通年を通して多くの人々が訪れる魅力づくりが必要である。 ・人口減少による町中心部の賑わいの減少が懸念されるなか、年間400万人以上の観光客が訪れており、これらの交流人口を町の活力として活用することが必要である。 ・若者の転出や出生率の低下により少子高齢化が進行しており、定住人口や交流人口以外に若者に選ばれる居住環境を提供する必要がある。
将来ビジョン（中長期） 【湯沢町総合計画】 ・「「自然」にあつまるまち湯沢」を将来像として定め、多様な主体による計画的で着実なまちづくりを推進を掲げている。 ・地域資源を生かした通年観光の魅力づくり、交流拠点づくりと観光客を含めた地域活動の推進などを重点戦略としている。 【湯沢町観光振興計画】 ・越後湯沢駅周辺については、雪との共存で作り上げてきた街並み・景観の保全による、都会には無い「もう一つの日本」の演出のための景観整備を掲げている。 【湯沢都市計画区域マスタープラン】 ・「都市機能の誘導と広域交通ネットワークを活かした交流の促進」を都市づくりの目標の1つに掲げている。 ・越後湯沢駅周辺地区については、多くの観光客にぎわう拠点として、土地利用の効率化などにより、商業集積とにぎわいの創出を図ることとしている。

都市構造再編集集中支援事業の計画 ※都市構造再編集集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。							
都市機能配置の考え方 ・町内の小中学校を統合した湯沢学園周辺は、教育・福祉・交流の拠点を形成すると共に、日常生活に必要な生活サービスを有する地域拠点の形成を図る。 ・越後湯沢駅から国道17号までの中心市街地エリアは、商業・サービス機能の維持・誘導を図り、便利な居住環境を形成する。 ・中心市街地と地域拠点間は公共交通によるネットワークを形成し、越後湯沢駅周辺は交通拠点として乗り換え環境のシームレス化を図る。 ・広域的な利用を前提とした都市機能は、定住自立圏を形成する南魚沼市、魚沼市との連携により確保する。							
都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方 ・中心市街地での「交通拠点性の強化」「多様な世代が交流する快適な暮らしの場の充実」に取り組みます。 ・旧湯沢小学校敷地を含む主水公園を、子育て世代が安全・安心に集える交流の場として整備・活用を図る。 ・主水公園を利用したイベント開催により、観光客や住民など多様な人々の交流を促進し、町の賑わい・活力を向上する。 ・都市機能が集約されたエリアにおける歩いて楽しいまちづくりに向け、歩きたくなる空間の整備を推進する。 ・病院や商業施設等の誘導施設間の歩いて移動しやすい環境を形成し、歩行空間の向上することで地区の賑わいを創出する。							
都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等							
目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
乗降客数	(人/日)	JR越後湯沢駅の乗降客数	越後湯沢駅へのアクセス性や駅関連施設の利便性向上を把握するため、越後湯沢駅の乗降客数を指標とする。	6351	H30	7500	R6
公園を使用したイベント回数	(回/年)	主水公園を使用した各種イベント等開催回数	公園の整備を行い、各種イベント等の開催を行うことのできる場を創出することにより、住民間の相互交流を深め、潤いと魅力ある地区の形成が図られると考えられる。	0	H30	2	R6
通行者数	(人/日)	一般県道湯沢温泉線を通行する歩行者数	道路空間整備による賑わいを把握するため、一般県道湯沢温泉線の歩行者数を計測し指標とする。	1076	H27	1300	R6

計画区域の整備方針	
目標1:越後湯沢駅周辺の拠点性の強化とバリアフリー化の推進 ・越後湯沢駅東口駅前広場、エレベーター、公衆トイレのバリアフリー化等によって、公共交通機関相互の乗継動線のバリアフリー化を行い、誰にでも気軽に利用できる交通結節点とする。	方針に合致する主要な事業 ■基幹事業:地域生活基盤施設(越後湯沢駅東口駅前広場) ■基幹事業:高質空間形成施設(越後湯沢駅エレベーター) ■基幹事業:高質空間形成施設(越後湯沢駅公衆トイレ) ■基幹事業:地域生活基盤施設(情報板)
目標2:多様な世代が交流する快適な暮らしと生活の場の充実 ・近隣住民のレクリエーション需要を満たす「憩いと健康の空間」「子どもがのびのびと遊べる空間」を創出。 ・駅や主要観光施設に近く観光客等の来訪者も見込める場所に「景観・街並みの価値向上に資する空間」「人々が集い・ふれあえる交流空間」を創出。	■基幹事業:公園(主水公園) □提案事業:事業効果分析調査
目標3:誰もが歩きたくなる道路空間整備による賑わい創出 ・歩いて楽しく、誰もが歩きたくなる道路空間に再構築する。	■基幹事業:地域生活基盤施設(サイン整備) □提案事業:事業効果分析調査
その他	

様式(1)-④-1

(金額の単位は百万円)

...A

...B

094